

日本労働年鑑 第51集 1981年版
The Labour Year Book of Japan 1981

第二部 労働運動

II 主要な労働組合の大会

3 中立労連、新産別、IMF・JCの大会

2 新産別第三二回定期大会

全国産業別労働組合連合(新産別)第三二回定期大会は、七九年一〇月二二～二四日東京上野・池之端文化センターで開催され、八〇年度運動方針を決定した。大会冒頭あいさつにたった小方委員長は、労働戦線の統一について、「これまでの労働組合あり方を、根本から見直すことを基本にすべきで、とくに労働団体間の共闘のつみかさねが統一の前提になるべきだ」と述べ、また「相互に条件をつきつけあう中からは、再編成はありえても、本当の意味の統一は生れてこない。自分だけがよければという方式ではリーダーシップとはいえない」として、同盟などが統一に条件を持ち出していることを批判した。さらに同委員長は、総評の国民春闘共闘会議への参加要請について「これまでの経過もありただちに共闘に参加することはできない。しかし全体の歩調をそろえるよう努力したい」との態度を明らかにした。富田書記長提案による八〇年度運動方針案討議のなかでは、中連との統合でスッキリした形を望む声を背景にした質問、意見が出されたが、これにたいして富田書記長は「新産別と中連だけの時は将来統合の確認事項もあり、結成準備会の過程では〃二～三年後をメドに〃との議論もあった。しかし総連合として正式に決定していない」との経過を説明、同時に結成後、触媒機能に賛同した電通共闘の参加など他組織が入ってきた状況の変化もあるため、中連と新産別だけで求められない情勢もあると述べ、「統一運動の動向をみて対応することが必要だ」との答弁をおこなった。

大会は、それらの質疑討論のあと同方針を原案どおり決定、「生活向上をめざす闘いに関する決議」など三決議の採択および小方委員長、富田書記長ら新役員の再選にひきつづき大会宣言を発表してその日程を終了した。

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

****年**月**日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】